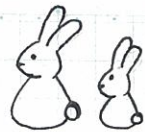


HONTAN

図書館ボランティア「本探」が
旬の図書館情報をお知らせします

今年
はウサギ年



第15号
1.2月合併号

ON TAN PIECES

年末年始を家族で過ごした人、
結構多いのではないのでしょうか？
というわけで、今回のテーマは「おす
すめの家族小説」!!
もと家族を好きになる本を集めました。

卯月の おすすめ
有川 浩 913.6/A
『三匹のおっさん』
3人のおじさま(笑)がど町内の自警団に...
反抗期目の孫とのやり取りは必見です。

花漣の おすすめ
瀬尾まいこ 913.6/S
『幸福な食卓』
「今日で父さんをやめよう」と言い出す
父親。バラバラになりかけた家族の行末は？

珠の おすすめ
ジョン・グローガン 936/G
『ムーリー：世界一おバカな
犬が教えてくれたこと』
愛犬と過ごした13年間を綴ったエッセイ。
笑って泣ける。バカだけじゃ愛おしい家族の物語。

N川の おすすめ
辻仁成 913.6/T
『ミラクル』
妻の死を受け入れられない父と母を求めぬ息子
のお話。家族を想う温かい気持ちがあふれています。

舞の おすすめ
重松 清 913.6/S
『エイジ』
思春期、家族、部活、友達、恋...。
現代のホームドラマの代名詞ともいえる作品

masaruの おすすめ
梨木 香歩 913.6/N
『西の魔女が死んだ』
『魔女修業』で、不登校の少女の心が癒され
ていくのを清々しく描いた作品。(映画化もはじ

なかの おすすめ
朝倉かすみ 913.6/A
『ともしびマーケット』
嫌いになるのも後でまたなくなるのも両親のことが好き
だから(232号線)。なんとなくほっこりする短編集。

まやの おすすめ
角田光代 913.6/K
『八日目の蝉』
母を生てなんだろ？何よりも強い「母」として
の思いは、どこへ行くのだろう？

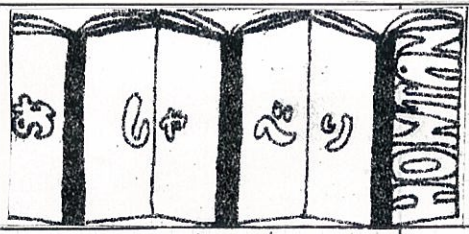
とあかの おすすめ
島本 理生 913.6/S
『リトル・バイ・リトル』
母と、異父妹のユウちゃん、私。いろいろな出会
いと出来事があるけれど、家族は家族なんです。

今月の1冊
森博嗣著
『学部・水柿
助教助の
日常』
913.6/M

コラム
おかの **本探力**
本にまつわる雑誌について

主人公は水柿君。彼はのちに推理小説家としてデビューするのですが、今は某大学工学部の助教授をしています。この小説で描かれているのは、水柿君が過ごす様々な人々と様々な謎で満ちあふれた面白おかしい日常です。理系の人々のことがちょっとわかっちゃう一面もあります。この小説を書いた人は森博嗣。『すべてがFになる』『スカイ・フロア』などの作品で有名な小説家ですが、実はこの人、今は退職してしまっただけで某大学工学部の助教助だったのです。...あれ？これって水柿君の境遇とそっくりじゃないですか？じゃあ、この本ってもしかして、小説じゃあないんじゃないの...？
いいえ、これは小説です。だってちゃんと語り部が「これは小説だ」と言っていますから。...でも、この語り部、って...いったい誰？
謎が謎を呼ぶおかしな物語。いや、エッセイ？その不思議な感覚に、思わずはまってしまふかも？<とあか>

本にまつわる雑誌読んで、実は結構たくさんあります。みなさんどのくらいご存知ですか？今回は数多くある本にまつわる雑誌から「文藝春秋」と「ダ・ヴィンチ」を紹介しましょう。「文藝春秋」は文藝春秋社から出ているいわずと知られた有名誌。芥川賞の受賞作が掲載される雑誌でもあります。「ダ・ヴィンチ」はメディアファクトリー社から出ている本やマンガなどの情報が載った雑誌。連載小説も要チェック!
→ 宮木あや子「セモノ黒真珠」(913.6/M) <とあか>



今回のテーマは、「2010年、どんな本を読んだ?」です。この本がおもしろかった、この本話題になったよね、などなどとおか、舞、卯月、花蓮、珠、なのがおしゃべりします!

と: まず、それぞれどんな本を読みましたか?
舞: 私は2010年はアクション系というかSF小説をたくさん読みました。特に貴志裕介の『新世界より』(913.6/k)は臨場感にあふれて、友達といるときさえ続きが気になった。本当におすすめです。

卯: 私はあまり本を読めなかったけど、読んだ本の中でお気に入りだったのは桜庭一樹の『GOSICK』シリーズ(913.6/s)です。変なキャラクターがたくさん出てきて楽しめました。『GOSICK』の影響もあって、桜庭さんの本は結構読んだなあ。

な: 私は逆に2010年はたくさん本を読んだつもりです。中でも衝撃を受けたのはアゴタ・クリストフ『悪童日記』(953/k)と

と喜ぶふりや『ちやっぴ』(913.6/k)です。『ちやっぴ』はいろんな意味で『ち』しました。

珠: 私が2010年に読んだ本で印象に残っているのは、思田陸『私の家では何も起らない』(913.6/o)です。ホラー小説で、読後のぞめとした感じがなんとも。

と: 私が印象に残っているのは朝井リョウ『同島部活やめるよ』(913.6/A)と沖方丁『天地明察』(913.6/u)と夏川草介『神様のカルテ』(913.6/n)です。『天地明察』は初時代小説だったんですけど、すごく読みやすかったです!

花: 私の2010年のベストは道尾秀介『光楳の花』(913.6/m)です。今まで本を読んできて泣いたことってなかったんですけど、この本読んで号泣したんです。自分でもよくわからないんですけど、打ちのめされたっていうか...。

舞: 道尾秀介さんは一時期結構読んでたなあ。私は『ラットマン』(蔵書無し)が一番好き。

と: では、2010年の話題作って何だと思えますか?

舞: 私は漆かなえ『告白』(913.6/m)が話題になったと思うな。あと、岩崎夏海『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』(913.6/i)は、

2010年で一番読まれた本らしいね。誰か読んだ人いますか?

と: 『もしドラ』読みましたよ!あの発想がおもしろいですよね。ストーリーもぬんより。一見関係ないことでも応用すれば役に立つこともあるんだなあと思わせる本でした。

花: 斎藤智裕『KAGEROU』(913.6/s)も話題になりましたね。今気に入っている本です。

舞: あと、北海道で話題になったのは小路幸也作品かな。来春には映画化もされるらしいし。

珠: 他に話題になった本といえば、村上春樹『1Q84 Book 3』(913.6/m)や本屋大賞をとった沖方丁『天地明察』とかですかね。

と: なるほど。今季がった本は2010年に話題になった代表作ってことですね。

珠: でも、季がった作品ほとんど読んでないかも...。2011年は読書量を増やしたいです!

と: 2010年に本を読んだ人もそうでない人も、2011年にはどんな本が話題になるのか楽しみですね!

よくわかる HONTANの (伊藤) 館長 伊藤 舞 第1巻 発行 卯月

今回は、館長の読書スタイルについて紹介。館長の日曜日の過ごしかたとは...?
→ 日曜の午前は家族と一緒に過ごします。午後にはソファで寝転びながら本を読むことが多いです。(途中で寝てしまうことも...) <卯月>

企画展示紹介
今回の企画展示では、12月から3月にかけてのイベントを、いつもとはちょっと違う視点で紹介します。よく知っているイベントはさらに深く。イースターとかは日本にないの、知識を増やすのにも最適! <なのか>

DVD展示紹介
今回のDVD展示のテーマは、「原作から映画化された作品」とHONTANの独断と偏見で選ぶ「気になるジャケットの映画」を特集します。こんな作品もあったんだ!と見てもえるとうれしいです。 <卯月>

HONTAN 展示で 見つけて

HONTAN 雑誌の書評を 紹介 Pick up MAGAZINES

タリオン1月号の特集は「Book of Year 2010」!小説のみならず、コミックや哲学書もミニートされているのが見所。

1位は、村上春樹の「1Q84 Book 3」が堂々の入賞。人気作なので、図書館予約待ちの人も多いのではないのでしょうか?

→ 村上春樹『1Q84 Book 1』(913.6/M-1) <まや>

2011年最初の機関誌 HONTAN、いかがだったでしょうか? 今年も展示、ポスター等々と共に機関誌もよろしくおねがいいたします。さて、今年はいったいどんな本の出会いがあるのでしょうか。とても楽しみです。 <とおか>

年も変わって2011年になりましたが、あなたは2010年、どんな本を読みましたか?

